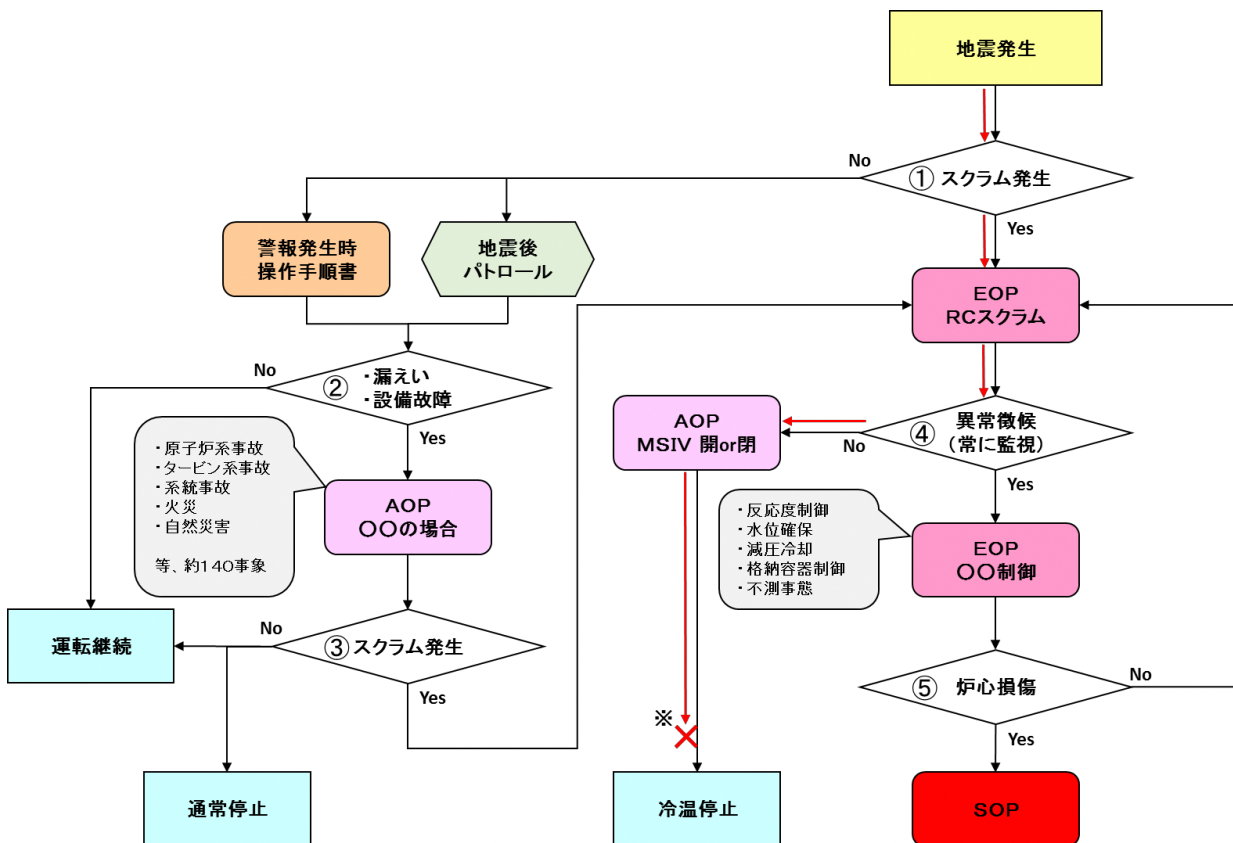


### 参考3: 事故時の手順書使用例

事故時に運転員が使用する手順書は、起因事象の大きさやプラントに与える影響により選択する。

下図は「地震」を起因とした場合のフローである。

- ① 原子炉がスクラムしていれば事故時運転操作手順書(EOP)RC スクラムで対応。スクラムしていなければ警報発生時操作手順書で対応するとともに、地震後のパトロールを実施する。
- ② 冷却材の漏えいや設備故障が発生した場合は、事故時運転操作手順書(AOP)の該当する手順で対応。異常がなければ運転を継続する。
- ③ 事故時運転操作手順書(AOP)の対応中に自動または手動でスクラムした場合は、事故時運転操作手順書(EOP)の RC スクラムへ移行。スクラムしなければ運転を継続、若しくはプラントを通常停止する。
- ④ 事故時運転操作手順書(EOP)の RC スクラムの対応中に異常徴候が確認された場合は、該当する事故時運転操作手順書(EOP)で対応。異常徴候がなければ事故時運転操作手順書(AOP)の原子炉スクラム事故 主蒸気隔離弁(MSIV)「開」または「閉」の場合の手順で対応する。
- ⑤ 事故時運転操作手順書(EOP)の対応中に炉心損傷が確認された場合は、事故時運転操作手順書(SOP)へ移行する。



※ — 福島第一原子力発電所事故時の状況

- ・地震発生から津波襲来まで：EOP「RCスクラム」及びAOP「MSIV閉」に従い対応
- ・津波襲来に伴う全電源喪失後：事故時運転操作手順書がそのまま適用できる状況ではなくなったため、事故時運転操作手順書や設備図書などを参照した上で、現場で操作可能な設備・手順を活用